雜字訓蒙圖彙 全

1 3
1889

世話故事
出處註解

難字訓蒙圖彙

摂陽松檜堂藏版

序

[illegible]

世間爾の[illegible]と[illegible]の胸[illegible]字の[illegible]

生[illegible]論[illegible]者[illegible]解[illegible]

に[illegible]而[illegible]矢[illegible]と[illegible]

[illegible]と文[illegible]足[illegible]

[illegible]庶物の[illegible]

[illegible]其[illegible]圖繪[illegible]墨[illegible]

門イ3
號 1889
卷

總目録

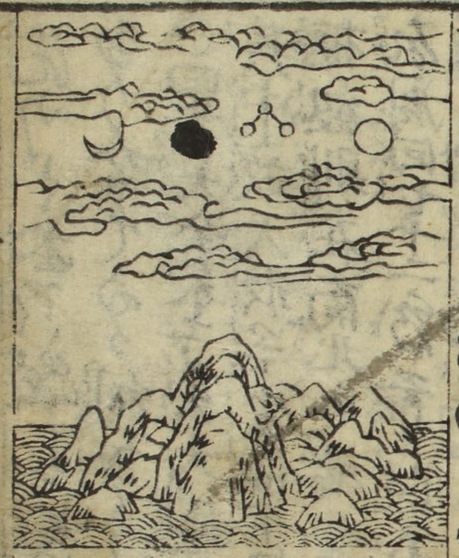
乾坤門　時候門
神祇門　人倫門
氣象門　支體門
草木門　衣食門
器財門　居宅門
鳥獸門　言語門

目録子

難字訓蒙圖彙上巻

乾坤門　天　大空　雲　雨　霧　霧雨　霧花　霧雨

○大空はあまくもの事也○雲は天の形をなす也○雨は九天の陽の精也いんの水なり



荒々茫々たるとなり○慶盈嘉と云

ありみくてある絪ありう

○四書大全朱子云天圓而動且平沖外地方而靜處乎其中故天形平覆地上字宙地下托地旋不息其極級則在南北之端書謂之極南極入地三十六度故周回

九周回七十二度常見不隱云云經星隨天左旋日月又緯右轉更迭隱見云云天の形圓かく穹窿の如

ひとりの度三百六拾五度四分度の一也地形方けいく天の中央にたゝ海まうり級よりの極ハ地にしかるゆえ天地ハ位置にて陽の天ハ左旋し月ハ右旋し

運動とのゝ也すゝ廣雅曰天去地二億一万六千七百八十一里半度地ゝ厚ゝ天高等南北相去二億三万二千五百七里二十五歩東西短四十歩云云

日

陽烏　金烏　赤烏　陰駒　白兎　陽精　太陽　太明　金盆

○陽烏ハ日ゝ物の精あり烏ゝすゝとあり字彙云日を曰陽烏中有三足烏云云ゝ或説日ハ火精ゝ陽

あり故に水熱して陰中に陽中の陰也○金烏赤烏
きんのと烏のあかきなり○金烏赤烏
金と烏にてうり張と陽とあらはれ
赤と赤精のあらはれなり○陰と陽とひとつ
卵いまだ未日月のあらはれなる月一色の和合をさ
とるなり○やさしく花さいて生和合をひとり
物とつくり張 傷同駙 駙追綺羅三の
時花と花とより○白物まつは同じ漢 昏魏 新傳人生
如白物過隙云云注白物日景也云云○陽精大明
大陽八物にあらはれ合金盆にあつ初
○太陽の精人の春の象也陽春は入

春にあらはれ秋に衰へ冬に蔵す
白虎通云日八徑千里周三万里云〻
月 玉兎 玉弓 玉鉤 桂輪 嫦娥 銀盆 陰精
玉鏡 元鏡 破鏡 ○玉兎とは兎ハうさぎ也ハ
称号なり物うり月中の兎とはいはゆる御娘代醉一云云
月八陰家の精也三日一兎
在月中云云法苑珠林長
阿含傳云過去有兎行菩
薩行と帝釈試日家自然
食捨身於火中天帝感
取其燃置月中令本

衆生知是過去菩薩行業之身[illegible]
[illegible]○[illegible]三月[illegible]
[illegible]○[illegible]
三月[illegible]
○[illegible]輪[illegible]
後集二十八云ク柱樹一名木槿葉似枇杷小也花淡白
[illegible]紅者[illegible]花黄花者[illegible]
常青云云[illegible]の柱樹[illegible]法一天文門
砍樹下云ク酉陽雜俎云月桂高百丈下有一人常砍
之人姓吳名剛西河人学仙有過謫令伐樹[illegible]

[illegible]
○常娥[illegible]人の名也事文類聚前集二十云寿昌
石記云ク薬於西王母[illegible]嫦娥竊之遂走化身為月
宮云云嫦娥[illegible]事の也[illegible]
娥[illegible]
○銀盆八月と金盆[illegible]
[illegible]八月[illegible]
[illegible]○[illegible]
[illegible]月[illegible]
○[illegible]詩云ク月如人相逢[illegible]
[illegible]云ク○破鏡[illegible]
○月八大[illegible]の精也[illegible]名月鉄也滿則缺云云[illegible]
不足スル者ハ[illegible]十五日滿

のかれさる主の首よりのぼりてうけの行燈のたこた様り
おりのぼりてまたはなれてかくれさるゆゑやく人乃世中
日月乃合璧　烏兎　重輪　○金紙とハ璧ハ光
也月乃ちきりにおそく新月ハ兎ハ月中の烏乃羽化ハ璧と合すゆの
ゆゑとなるの烏也　主鳥ハ
星　連珠　金精　金気　○連珠ハ如とは
ちゝよりむみて多ク紙し金精金気ハ星ハ陽の
つれなるのかまこはし金の字又陽ハ光なり
○星ハ五彩列宿乃光在り星ハ陽のつれなるゆゑ
ゆゑの字なり月ハ生ゝかゝり春秋説題辞

星乃為言精也陽之榮也陽精為日月乃為星
故其字日生乃為星云々
風　風ハ陽の体なり物の用ゝ形る也故ゆ
風ゆく時ハ広りのゆず乾きり釋名に云風ハ放也
気放散也云云海ゝ字彙風ハ大塊之噫気也
とあり噫気ハ人の息也
食し気滿ゝ腹時ハ出さ
り遂ゝ気ゝ腹ハ
りくゝ気のゝ腹ゝ
気乃放散せるゆゑ
とあり

雲

無心　若指　雨具○無心とは雲をいふ陶淵明歸去來辭云
雲無心以出岫云云また東坡詩出本無心歸亦無
白雲題紙窗雲を化して物の体より雲
の異名なり○雲を山川の氣とする漢
佛云化氣上為雲雲氏氣
為雨云云雲は陰の体
水火陽の用なり
雲起ては物の用
なるゆゑ雲起る時は
雨降るなり

天河　泥漢　泥河　明河　白河○泥河は漢
わまの川なりそのいろまことにて泥のごと
故に泥漢といふ明河
白河同じ意なり

雷　雷は陽薄震也
陽の陽也陰は
水火と交りて雷霆
は震と雨雪故に雷は震
陽の陽也今俗に雷を鼓と云
論衡云圖雷之形聚之如連

敦煌又圓一人若力士謂之
雷公使之左手引連鼓右
手推之云云

電 記月令二月始電云云流云電陽光也
微則光不見此月陽氣盛以擊

露 張液 玉液

液ハ露ノ異名ナリ○張液ハ張液ハ露ノ
別名ナリ○露ハ陰ノ液ナリ○露ハ陰ノ
液ナリ○露ハ霜ノ始ナリ

霜 殺林 天花 天英

青女○殺林ハ本草ニ
見ヘタリ霜降ル時ハ草木ハ
枯レ葉落ル故ニ殺林ト云
○霜 時泰風白露降ル
時ハ霜降ル時ハ草木ハ
枯レ葉落ル故ニ殺林ト云
○青女ハ月令ニ見ヘタリ○天花
○天英ハ月令ニ見ヘタリ○天英
ハ霜ノ別名ナリ○天花ハ霜ノ
別名ナリ○天花ハ霜ノ別名
ナリ○天花ハ霜ノ別名ナリ

雪　銀花　銀屑　撒塩　柳絮　六出花
無影月　不香花　羞明

○銀花ハ雪ノ白クシテ花ノ如クニ見ユルヲ云フ○銀屑ハ銀ノ屑ノ如クニ見ユルヲ云フ○撒塩柳絮ハ共ニ雪ノ形ヲ云フ○撒塩ハ塩ヲ撒ク如クニ見ユルヲ云フ柳絮ハ柳ノ花ノ飛ブヲ云フ謝安雪日集児女論文義俄而雪驟公欣然曰白雪紛々何所似兄子朗兒曰撒塩空中差

可擬兄女曰未若柳絮因風起公大笑為樂云云

雪ハ白ク見ユルヲ云フ○無影月ハ不香花ト云ハ唐詩ニ梅花ハ月光ニ似テ月ハ梅花ニ似タリトアルヲ無影月ト云フ○羞明ハ雪ノ白ク見ユルヲ云フ

乙

雲也羞明とうらうたまはゆと訓じ宋亀山雪溪よ
りとなりうる訓也を詩に云高眼羞明数轉光と
作るとうらうハ羞の明とうらうく衆多なるを也
○歌海集雨霽而為雪也云天地の陰陽温
冷の附ハ雨とかりを云附ハ降くを云大載記
ふとんとうり

雷　西京雑記陰気閉藏而陽為雷云
陰佃云陽散陰為雷
陰包陽為雷とうり今殺
雷と通じて用ゆるを
ひ流よる附ハ訓同じを
て字義別ゝくるあり

霧　乱氣　鴻濛未判　○礼記云穿ハ法
内乱とりをうりの也荀卷に浮れり
○鴻濛未判ハ蕭則陽が詩より出たりを侍
りを云紛々一氣畢長寂絶與鴻濛未判同云書
言故事に天地未判と言故事に天地未判
分ると万事を明
らうらいつまでも乱ハ天地未判の附のごとく
○新ハ陰濛乱より出たりの也爾雅云地氣
上天氣不應成霧天氣下地氣不應成霧
とうり今俗よ霧ハ霧の曙なりとて通
とうりの也とうるふらわるに霧附ホウ

霧露なとの霧あく同字同義にあらんまさ霧の字の俗霧に作るなり霧なりと云書正誤に

虹

釋名虹攻也純陽攻陰也

朝西暮東なく俗よ虹の字の俗にあらんかと云

出魚

鮮盛者爲雄

雌

水氣○水氣とは河圖云崑崙山有五

氷柱

氷柱なり氣より成る雨水なり字屋雹八月雰之雨雪

潮

汐○潮は海水の屬

潮汐

潮汐は月の盛衰に応ずる一日の内二度満干の時は陰陽の氣の盛衰なり

狂一日のみれば乃ち
故に溯洄まさに行り
られて花のわひく陰陽
花自然乃妙なり

山

畫屏○畫屏と
ハ畫りて屏風といつの
ものを云ハ似屏風と侯
早魃

早ハ字彙に暵
でりと訓とり魃ハ字
彙に蒲撓切旱神也神異

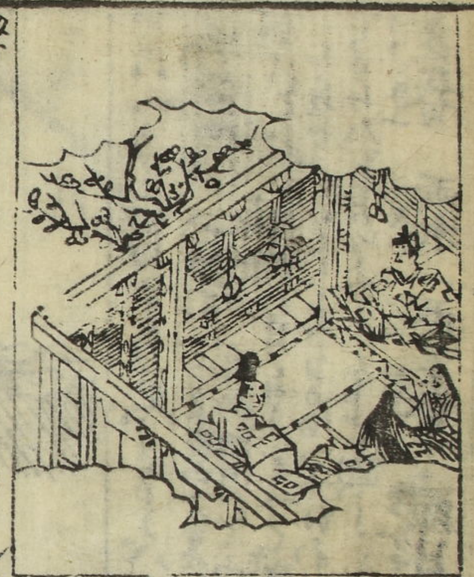
猶云南方に有人長三三尺
目在頂上走行如風名魃
所見之国大旱一名旱母
云云ちうバ魃ハひでりの神
霖雨

霖ハあめといつの事
文選張銑注に三日雨為霖

ちうバ雨降ハ
時候門

正月

十二ケ月の異名とあり
年の初月と云ふ
陰逝の月なり
政とは正月と云ふ
春の始寅月に侯
政月と云
とうらひそひくるよ天上と正しくまさしくそこ
立春　雨水　啓蟄　春分　清明　穀雨　孟春　太簇　三陽



立春　朦朧　三元

○立春ハ正月ノ節ニアリ居敬ニヨリテ年内ニ
あるなり雨水ハ正月ノ中ニ下可進之○蟄ハ字音始也ト注セリ
蟄ハ字音始也ト注セリ陽月ハ孟春同じ意ナリ
○春分ハ二月ノ節ニアリ
○春分ハ二月ノ節ニアリ
○春分ハ二月ノ節ニア

三月　敬蟄　春分　佛春　春半　四陽　二月ハ四陽生ズルニヨル

夾鐘　衣更着　如月　○仲春ニシテ三月ノ中分ニ当ル　○夾鐘律名ナリ

ものゝ芽ハ芽ぶく　同　○夾鐘ハ種也ト註シタリ　二月ハ百万ノ草木ノ芽ぶくトイフ

夾ハ合ミ甲也　鐘ハ種也　草木ノ芽ぶくトイフ

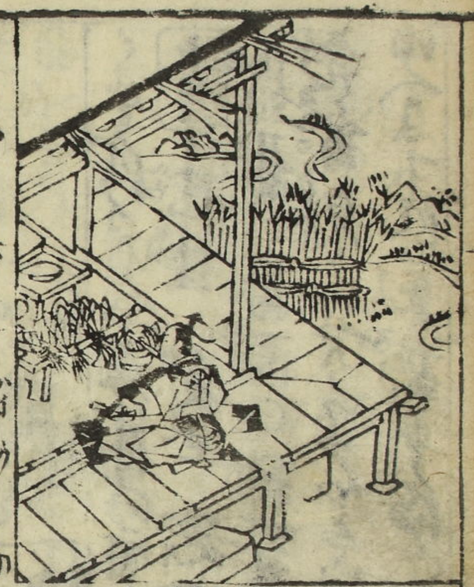
草木ノ芽ぶくトイフ

天下の士民歌舞して曲のあれ舞と謂つべし
の形うく酒盃と水上にうかべ盃のかうま
ぶりうらに詩歌を添くに酒と俳諧
をかく美濃と張をかくに対とあり
より出るあり乃至とうすあるいはうたの色の
日と月ひとつ〳〵離れ三日と月ひとつ巳の日
と月ひとつ〳〵離れ五日と月ひとつ巳の月穢とうつす巳
のすとうつるあり

四月　芒種　夏至　小満　仲呂　卯月　麦秋　首夏
初夏　新夏　純陽　六陽　○仲呂律名也呂助
也つまり巳月陽気盛長して陰まさに成功とうすく

くさぐさのゆくよ純陽の月にて六陽の月
の花さくなり○麦秋とうすくゆくさ
○麦秋とは青麦とかりあつまりゆくさ
○純陽とは純陽とかりいと
よりは月にて陽をとく

五月　芒種　夏至　蘇　盛夏　梅雨○蘇賓律名也蘇ハ稲文に草本
梅雨　梅雨　梅雨　梅雨　梅雨　梅雨　梅雨　梅雨
ゆくよりて蘇ハ稲の穂ハ実ハ実ハ実



さて月ごとに賞とるべし○梅
月一名に梅月五月さつきの
山月梅月とて花ゆゑ
○皐月さつきさつきのひかり
さつきさつきの月とうたふ
中略也　月間ふるにより
則水潤土溽蒸鬱成雨謂之梅雨一云梅月さつき
雨とあるのゆゑと梅
つゆ花別傳よりつゆものもし本草雨水ト時珍

曰梅雨或黴雨芒種後逢壬入梅小暑後逢壬出
梅云云芒種は五月乃節小暑は六月乃節なれば
亮月中の雨と云ふ四時纂要云
夏後逢庚入梅芒種後逢壬出梅云云
年中行事秘抄に
別冊生山田彦郎所村
よ云云つゆ五月
の伝とあり
○端午の事風土記曰仲夏端午注云端始
也謂五月也況曰楚人屈平五月五日當初午之
日沿羅水而死故五月五日云端午楚人毎

遊洲日に女に薄葉納飯を以て辛夷糸巻入水瓶屏
風の玄端午からづの手とりとりそ細ハ楚の屏原
とゝ云へ五月五日午の日に汨羅水よりづして
死とゝ云ゆへ楚人ハ粽のそなへり
恒と人ゝこの事わくまれ入屋原とゝ
今粽とゝ云ゝ昔ゝ午の日に汨羅水に
ゝ龍舟のすとゝ
まゝ換ゝ
菖蒲と
菖蒲と
ら

蛇ハ蛇わくゝ
蒲とゝ
ゝ
ゝ

則　夷則　親月　○夷則ハ律名也夷ハ傷也則ハ
法なり万物ことごとく傷ればなり○七月ハ秋
とかくるなり○七月ハ秋ハ文書とさして二星に作りあるハ文書
文月ともいふなり○親月ハ月ハ親人の墳墓

七月

立秋　處暑　肇秋
盂秋　初秋　新秋　夷

○水始涼　八月節　○水始涼ハ水の涼しくなるなり

七月七日織女天河とわたる　七夕
星會　乞巧奠　○星會ハ七月七日の夜七夕星
あつまるなり　乞巧奠ハ七夕の夜
婦人ハ花瓜酒果筆硯針
ハ詩を作り女郎ハ巧を乞ふ

八月　白露　秋分　南呂　鴻雁来候　蔡侯候　仲秋
秋半　仲高　深秋

○南呂ハ集名也南ハ姓也呂ハ姓の系なり陽ハ明
なるもの物ふるなり陽ハ明なるもの物ふるなり
陰陽相ハ任て陽と陰けく陰ハ陽なり
○乃来月ハ紀記月令作秋月鴻雁来ハ蔡侯ハ
○蔡侯月ハ蔡ハ姓侯ハ爵也
なりて陽ハ陽なるもの物ふるなり
ふるなり成の日
秋分ハ秋分ハ成の日
又数の祭也
社日ハ社日ハ蔡侯の

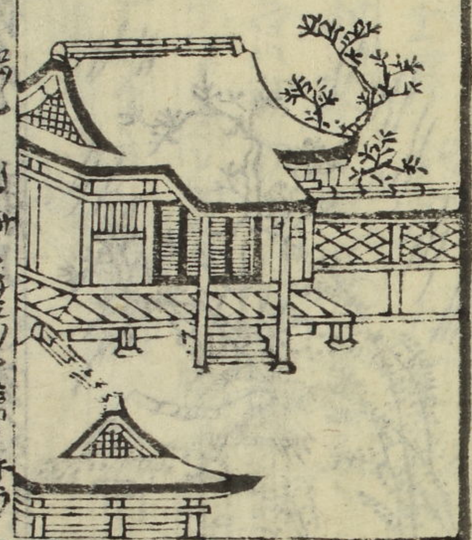
ハ秋なり秋ハ秋なり秋ハ秋なり秋ハ秋なり秋ハ秋なり

九月　寒露　霜降　無射　菊月　長月　暮秋
季秋　季秋　初秋　残秋

○無射ハ律名也射ハ厭也ハ万物陽に厭て
ふるなり成ハ成ハ成ハ

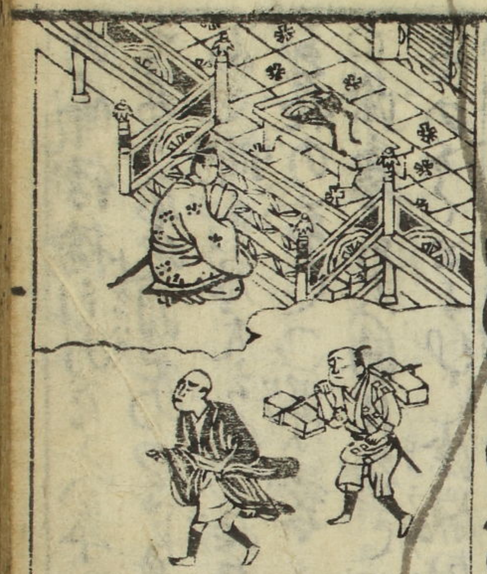
[illegible]ハ陽数なりみな[illegible]陽と[illegible]○登高節[illegible]
[illegible]記云ク費長房謂桓景九月九日[illegible]家ニ有
災急令家人[illegible]茱萸[illegible]登高
飲菊花酒[illegible]九月九日[illegible]
のり菊酒とつゝ茱萸と[illegible]
九日と登高節[illegible]菊の節茱萸[illegible]

十月 [illegible]冬 小雪 [illegible]月 ○[illegible]ハ集[illegible]地[illegible]ハ和
[illegible]陽月 [illegible]陽切[illegible]和[illegible]
[illegible]ハ[illegible]切[illegible]陽[illegible]
[illegible]○中[illegible]初冬記冬月[illegible]



[illegible]
[illegible]法の用[illegible]
[illegible]陽[illegible]
[illegible]
[illegible]陽月[illegible]
○[illegible]ハ[illegible]
[illegible]明[illegible]
[illegible]
[illegible]

十月 大雪 冬至種 陽復 新陽 復月
仲冬 猟月 黄鐘八陸 名黄泉ありて
鐘八種ありて十月陽気黄
泉ありて寸物と成し故
すなわち名ありて陽復と
あらいつるなり○陽復と
陽復月同じ意○冬月
とは月寒ゆへなり

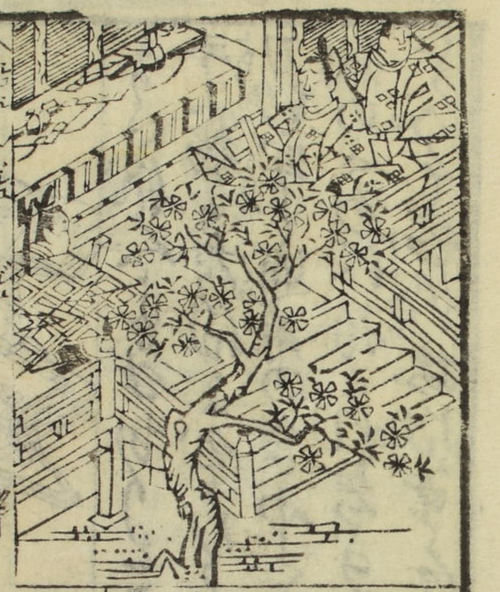


十月 小寒 大寒 大呂 臘月 師走 極月
季冬 晩冬 暮冬 殘冬○大呂ハ律名な
れば明ありて月陽気まだ陰気なれば
これなり○臘月ハ文臘ハ獵なりと
ところの名なり臘ハ獵なり
ゆへなり臘と獵ふ月の
戊日魏ゆへ辰日畏ゆへ
丑日ひるのとなりて先過
乃神霊と名るゆへなり
月と獵月なり
○師走とハ月僧年終

の例傍概略の〻〻人毎年此移殺の新説とこゝ
て毎月毎日毎時の口ずさみ〻べいそろ〻〻くるとあ
ゝし師元月元日元旦○拾月の拾日の拾時拾分
初花の節○菜花　除夜　除朧　年終
○除夜とは大晦日の夜とのぞくとふこゝろこ除
ゝのぞくとゝもし除朧同じ

人倫門　朕

朕とは天子の自称なり
ひさゝ朕の字は國王の辞なり
すし清号は人名と同じ訓なり
仁則ひとゝとは義則の同じ



儒者　儒は儒なりと訓ずる
ゝ〻ゝ云國史と儒ふ
故家の犯禁と儒して
ゝゝのゝし儒の
ゝと寅じゝ者儒
と称ずゝ天子の称号
二千六年以ゝゝゝ
ゝゝ自称ゝゝ儒
ゝゝゝゝゝゝ
ゝて日ゝゝゝゝ
用ゝゝゝゝ
ゝゝゝ仁義ゝ常の道
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

いく南京書風の流れなり
それハ傷道ハ是ハ流なり
有り無り無極なり

宰人 宰へ人なり物持なり
とかくなられるものとなり

宰へ流人と通じてなり
宰ハ流人ハ書にカキ
刀切宰へ通用のなり
綱のうへ拘されるなり
とかくなり物持なり

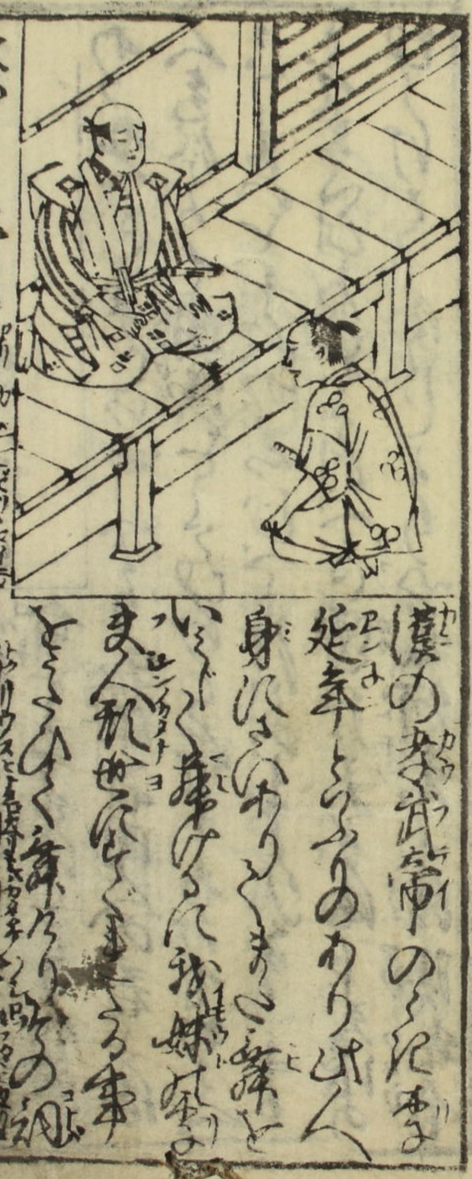
一つ流の字ハ流派
の字也一時にあらず流
派なり流なり流
ずあらべ今ハ紙文字
ハ宰人と書くなり身に
先とかくなり宰領
宰領なり宰領
とあるなり

とあるハ宰の字ハ
とあるハ宰ハ海
ならと宰也一事なり
なるべ宰の字
今宰領なり謂之領

宰領 宰領なり宰領
とあるなり
海切注なり
つくさるものハ
なるなり
なるなり里郡の切音
なるハ宰領なり

とのゝ酒盃面梅魚ト
うさぎうひのうとの
拙者 拙者はいかなる
是ぞ 徑まらぬ
傾城 傾國傾城とは

傾國とは面白き事なり
て女一人事なつかしく有
物なれの浮世もわが心
ありさまはよくこと今はの
とらまこまる溢裏撫ふ
寄へつかさとろ仏ふかい
ハいとんらんまとつ
ハ一言也
傾の禅もう
傾城



いうく北方佳人絶世而獨立一顧傾人城再顧
傾人國とうひきれハ漢の孝武帝きゝかれ
いかりのとうふそこひかるひそ
とうく起ひ姉行人
走バ宮ていに絶ん

漢の孝武帝のゝ記あ
延年とうのわりひと
身はさかりくまさ舞と
いくく舞けるて我妹
まく孤世ひくく舞ける事
とくくひく舞ける

[illegible]

[illegible]

[illegible]

身として頂赤鳥也故に名
いふ頸短く脚ながしりのあり
とれと云鶴に云名とも
いふなり

鳳 陽鳥 塞賓

○湯鳥とも雁ハ熱とる時
ちて陰陽の法なり
塞賓とも塞ハ胡國也賓ハ
ちなれば客なるひ

黄鳥 鄉賓 秋月鴻 仲秋月鴻 客鳥

黄鵬 金衣公子

○鄉賓ハ詩小雅に
出さり其詩云り鄉賓注鄉
賓鳥あるの也とうり
黄鵬とも黄鸝とも
見黄鸝とも黄鳥
金衣公子とも天寶遺事云明皇幸於林苑中
有鶯鳥飛來於花樹間
鷄 司晨 先曉 啓明 啓関○啓関ハ関と云なり

[illegible]

○杜鵑とは杜宇時とて

藥 杜鵑 天女

[illegible]

[illegible]

○杜宇 成都記曰杜宇称望帝以倚桐棺明死魂化為鳥名杜鵑又蜀王望帝魂化為鳥名杜宇と云

明にゆうて西山へ飛して魂化とゆ

と杜鵑と名付けしとぞ杜宇倚とゆ

[illegible]

くらゆへ蜀へ入れよりて杜宇と杜鵑とあり

[illegible]

○蜀の望帝乃ち杜鵑となり蜀魄

○蜀魄鳥 蜀魄ともいふ

○蟬 吸露 送秋 蛻骨 吸露ともいふ 淮南子に云く蟬ハ無口而鳴 飲不食 云く徐仙王詩に野客蟬を食て清と作り蟬を食て清と作りそこなるものと

○送秋 送秋ハ蟬の異名なり

○五月蟬の聲送秋と云こ蛻骨ハ蟬の殼なり

○本草に蟬云く其殼を目蛻と云

○蛍 丹鳥 夜光 宵燈 ○丹鳥ハ蛍の異名なり

○蛍 蛍ハ蟲の光なり

○蛍 蛍ハ蟲の光なり

○蛍 蛍ハ蟲の光なり

馬 追風 絶地 翻羽 奚騏 果下

○追風とハ駿馬の名なり○絶地とハ周の穆王の八駿とそ位の名馬の名なり○翻羽とハ後の光武帝ありそこの馬なりとうり拾遺記にとうり

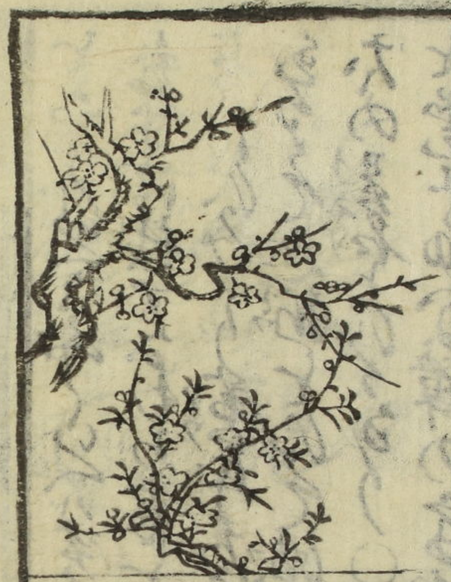
○奚騏ハわかさとうふと後漢書馬援傳乘下澤車御奚騏馬云々註奚猶後言奴騏遅緩也ゆう

遠遠湖帰云々○果下ハ小馬のすこしそ歩らいさく云々彫文枝ぶれ下ゆくらかふなり宋荆公句云哥童覊我果下騶云云

牛 桃林 黒杜形 ○桃林とハ所の名也周武王殷紂王とうそ世界の奥ふかいく海馬と華山の陽にくるら牛と桃林の塩とうふ云々也そ兵具兵事ハ尚書に

犬 狗耳丁 韓獵 ○英耳とは賈誼陸機と
いへの愛犬なれば名ずけ
陸機が家陽にありて家
家間と通ずるあり洞英
耳沈沈かくりていく
ゆえに通じて家間とうべ
ゆえに書と洞く安名

とうとうとうと



桃

○仙菓　仙木　不言

○仙菓とハ桃ハ仙人の菓ふるものゝ漢の武陵ゝ
ゝ人ハ桃花ゝ流るゝを見て仙宮にいたりし

松

○茶　十八公　茶顔　○公木　十八公

○松の字とハ公の字とハ
ゝ丁因ゝ
ゝ十八歳の間松脂
ゝ

八ヶ嶽ら舞し松の新芽といふ○陳志信詩蒼顏丹姿
載畫屏○女冠蘭ふけ松ら雪面に沈
ふれて常に青〳〵うるはしくあり

竹

瀟湘　湘妃　湘君　湘竹　湘妃○湘君と湘
瀟湘く楚國にあり竹の名ふし湘妃竹の
女姻ら女英の二女とされ
ありけ二女淚とちらし
勢國の竹ら湘妃竹
ひ葉の蓑搖野ふく
崩れ雨ありしとはすて此
のるく竹にうるを竹

楚暉の竹と淚ちらしたれし竹ハ
相川記りあるさうり○ひ者くに暑の玉義ら〳〵ま
ぬ〳〵とうり竹と拾て紙ちらあり竹ひ者と称て
竹〳〵ら紙文藝
桑軍王子紙栽
潭竹詩翠紙
翠油薄日暮倚
のるとうるく竹
紙〳〵ら〳〵ふ

牡丹

花王　富貴花　蜀錦○花王とハ顏色二
牡丹ハ爲花王　梓爲木王〳〵牡丹ハ花の中そ

[illegible]ハ花王
[illegible]ハ花ともいふ
周茂叔愛蓮說ハ牡丹
ハ花の富貴者也とかう
○蜀錦ハ牡丹花の異
名なり[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

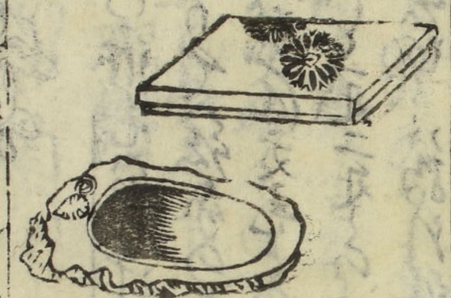
器財門　硯

銅雀

紫潭　墨池　黒渕

○銅雀臺の事　魏の武帝の遺址人
掘出　得古瓦以為硯　貯水數日不竭　云銅雀臺
ら魏曹操の作る所なり
て古瓦を拾ひ硯に用ひ

秋夜ひとり書を校わるに蟲
いつ来る所を知らず迷ひ
ひ鳴くを聞くと云
○硯は蓋ハ
すべきものなり



教ひ為て硯ざりとす
故に硯の蓋ハ
されハ今に
ひとり
すこと
も

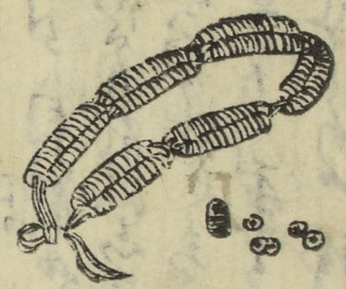
忍さうり○紫潭ハ紫石の事さ云こと
潭ハふちとよむ墨池ハ
池ハ
竹事　管城公　秋毫　筆毛　文毛　毛穎
○管城公とは毛の事
毫筆とも云ふ穎ハ

箭

[illegible]

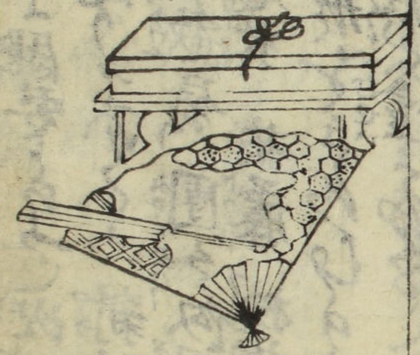
[illegible]

[illegible]



○鼎脚とハ後ハ天下のうち
ひろく流行の藝屋
金さ高賈工農
人くを鼎脚と渭
脚あるものにはれバ
をとるべくされば法とも
なるべし

論無足走とのうちより名付
名付ることあり（たし見文知所わるもの）（蘭書大公
居間立九府図法をく李壽注 図則法
そのうらにはりもいつみ
のうらにはりもいつみ



○孔方兄ハ孔ハ穴ありさいのとくわるい方とう
ゆゑ孔方とうとうあり兄ハ唐ものゝ名なり

屋 五明 雉尾 鶴翅 拍涼 團雪

○ゆうとうの家にあり
○雉尾ハ高の尾ハ
雉の尾にはさう
鶴翅ハ鶴の翅にて
拍涼ハ扇のつゝにて
涼をとるものなり
○團雪ハ雪ばかりを
丸くまるめたる
ものなり

ちるゆへ一聯雪とうつさ阮嬉姉聯雪の雨を風とうつく
剣詩作りてゆく新裂部孤不 岐路如霜雪
裁為人合歓扇 團々似明月

杖

鳩杖 柘藤 拄藤 拄杖 拄老 ○拄杖さえの拄杖ならに好の形ちさらしひのあり色とえとの流といと
ちむら好ん豊さあるもしきえ〻の手杖ばくぢんは
ひせはさるれ芳ととしし鳩杖と刃老人の名ちと
○拄藤とい藤ハ拄よこ数〻ちきとのるもハ龍鱗
例詩ゆ〻拄藤題ら〻領春姿ちく〻えし枝のう〻
○拄老といさとさ子〻とし杖ハ老人の拄とうの也
ゆゆ〻ゆり拄老の二字ハ諸書ハたさり白閑明帰

交也莫耶八字特ゲ妻也ハ宝鍵
ちえ〻ま〻易林曰鳩杖拄
老云云用ゆ〻組用ゆ〻拄
老藤ら〻名也とゆ〻

劔

干將 莫耶 干霜
莫雪 三尺〇干將ハ長大
為鈍 鈍刀為鋭
將也莫ハ耶ハ雪霜雪ハ劔のつ〻ばちさとの
保須句 雄劔 腰挿 秋霜 二尺〇

○三人と漢の高祖の故事也さて徳豊師とは
あらはれ名剣とは三人の剣とへいく終に天下
と治事史記に伊尹朗詠に三人剣光火斗
船 一樂 龍頭鷁首 鷁
○一説に秦始皇帝の居船とかゝ水の水
上にうかぶとて其ゝ本法を発
べくれば古書に龍鷁ハ
天子の特車也と云
るゝ説にらと作
船らもとゝ

○鷁者ハ淮南子 龍舟鷁
首云云其注云鷁大鳥也畏風飛水行
故畫ハ水神の船ハ鷁とかゝり天子の
文選の注に鷁ハ鳥名
らかゝるとゝ

畫風 屏ハ退也凡とゝ
ゝ字の意ハ鷁也
住とゝ流ゝ

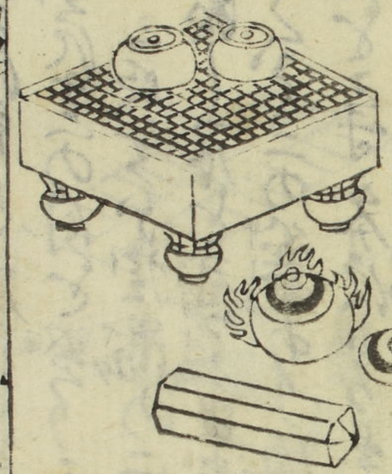
行燈

桃燈

行燈ハゆくさ桃ハかく
ろとうも桃ろ竹と桃竹
とらひ道行竹と行燈と
ゆくこれよりおくありて
今ハ行燈とかの桃燈と
たり燈とふすこ員ひわや
行燈

まれくあやまくさくろ付わや用りくろあやあり
ハ唐音あり

管絃 わくろ村ハ武つれ事くく支選の注 喩曰管撫曰
ゆくくゆきハ笙笛感角樂すくくふきあとと笛くくひ
琴琴琵琶かくの引あとあくくゆくくゆあり



珠玉 珠玉ハ玉ハ玉ハ玉ハ玉ハ玉ハ玉ハ玉ハ玉ハ
くあくくもわくくく

於智恵智者千慮亦有一失愚者千慮亦一得云云

双六　兼名苑に博戯とあり漢書に投壺とあり

[illegible]

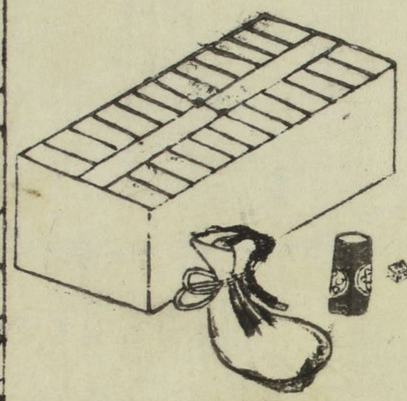
八方に行くべし廣八寸三尺に高さ七寸

[illegible]十二の月を象り天地人の三才に象つるなり

[illegible]二陣よりおのづから陰陽の二儀

[illegible]白三十の石あり日月なぞらへ二の賽あり陰陽の三才三天に象り

[illegible]



衣食門

酒　[illegible]

竹露　下酒　若　三遍　[illegible]

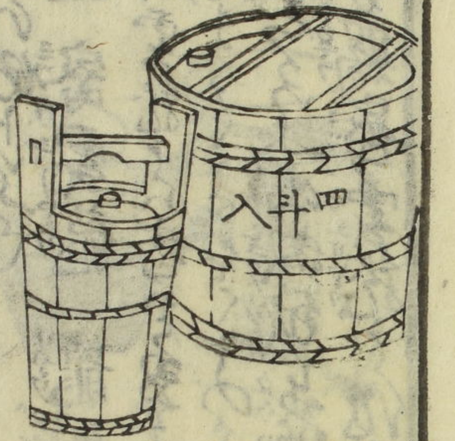
○[illegible]　別従事　平原督郵　竹葉

[illegible]

平原督郵　竹葉

有主　日本酒奉行　薄善別　賈好者　調　[illegible]別従事　悪者調平原督郵　蓋青州の別称　平原有鬲郡

記好酒八下腑而悪酒有記腑上注也從事八羹骸而
督郵賤職故取以為論云云按よりてさ為のし
称郡と腑にてしと又湘江野録
中に曰之列從事と酒と為て為の列從事
いてい山谷詩に攻許愁城終不同列從
事斬関来くに化生り○竹をくに百詠註宜城出
竹葉酒云云竹の葉酒をありて酒にくるとし
以て竹をの図をし○下若し所乃名し酒のもの也
朗詠集諸三酒八是下若村之所傳須甚所とし○
三遅とは酒の法也とは名付る事八酒



酒とのもの中に入るの寸
一寸八分のようり酒を
ろ三遅と云中に清れて酒
の図とし所に元のもの遅
仏の中に入るの清ら遅
酒と三遅とは酒を
清ら遅と酒
清ら遅の酒
清ら遅の酒
清ら遅の

[illegible]

三色の茶式あり[illegible]

[illegible]

○節茶わさび酒色一解[illegible]

[illegible]

[illegible]

茶

窩雲龍　龍團　鳳團　芽茗　雲脚

○窩雲龍とは窩から[illegible]

[illegible]

[illegible]

千鳥と名く今は味の字をわてゝ字よれやうにうれくとゝ

鱠 鱠つゝみ山さのを見て鱠とゝなれば

さ魚をとりて邪をとゝるゆへにかゝるゆへなれ

日本紀あり割鮮とかきてあるゆへなれとゝ

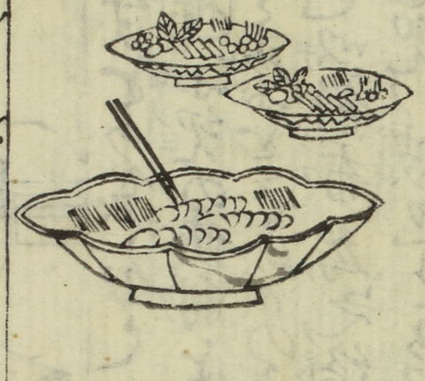
和名抄に擣衣のまきこつきぬたに細に未しゝうこゝろを妻情にゝ未せはゝ京の

當ゝりはゆゝ未を用ゐ

ぬきと字よれはゝゝゝゆへに

擣りてまの字とゝくさゝ

鱠と曾ゝゝのゝ



海せりられ粥かり粥は粥

のまし文選割鮮の二字

ゝはあぎゝのきとゝきゝと

後ゝり粥ゝはあゝゝきゝ

ゝとゝりきゝをゝ粥

魚ゝはきゝ粥ゝの元

ゝゝゝ粥ゝ鱠ゝ粥ゝより

下と裳ゝゝゝ裳れ

衣裳 衣裳とゝつゝまを

ゝにきゝと衣ゝゝ

とりゝそゝとゝゝれ

遺服 俗ゝ衣裳のゝゝ

どのゝゝゝゝゝゝゝ

けぶすとうもぐ〻し

繻袴 わゐこの使利とうこゝろのあるふとうとうこゝろのあるけわらべ漢土まゝ斎日繻八絽也以繒布為之絡負也使ヲ云くまゝ孟康曰

服といふのあり兩袖ぐるぬぎ流り遂服八道中の服しあめふゝぬ紬ぬ鳥とうこゝろよらきて等しせるのこ所わうりれきて衣裳と

難字訓蒙圖彙巻之三

乾坤門

陽烏 陽烏順和名曰暦天記云日中有三足烏赤色之今按文選謂之陽烏日本紀神之頭八咫烏云くらりくらりくられ字うこれ作るね○首巻日下にくんくりれ

陽烏

桂壮子 月墻義 牽牛星 林 織女 同 流星 遠明星 順 大白星 明星 夕星 万葉 昴星 順 天畢 林 拾葉 彗星 順 参星 林 雷公 順 和名 霹靂 日軍 月 陽炎 日南撞 日

雪丸　雪丸　万葉　雪丸　雪丸　雪丸

生き出さうの所の神とあがめ祭の
ことの形長さ所の法とかくのごとくなるもの
なりしかるにこれの家のうち
[竈神] 竈神釜八幡
の神と竈神とに
ふたりあり善心ありて
[竈神]

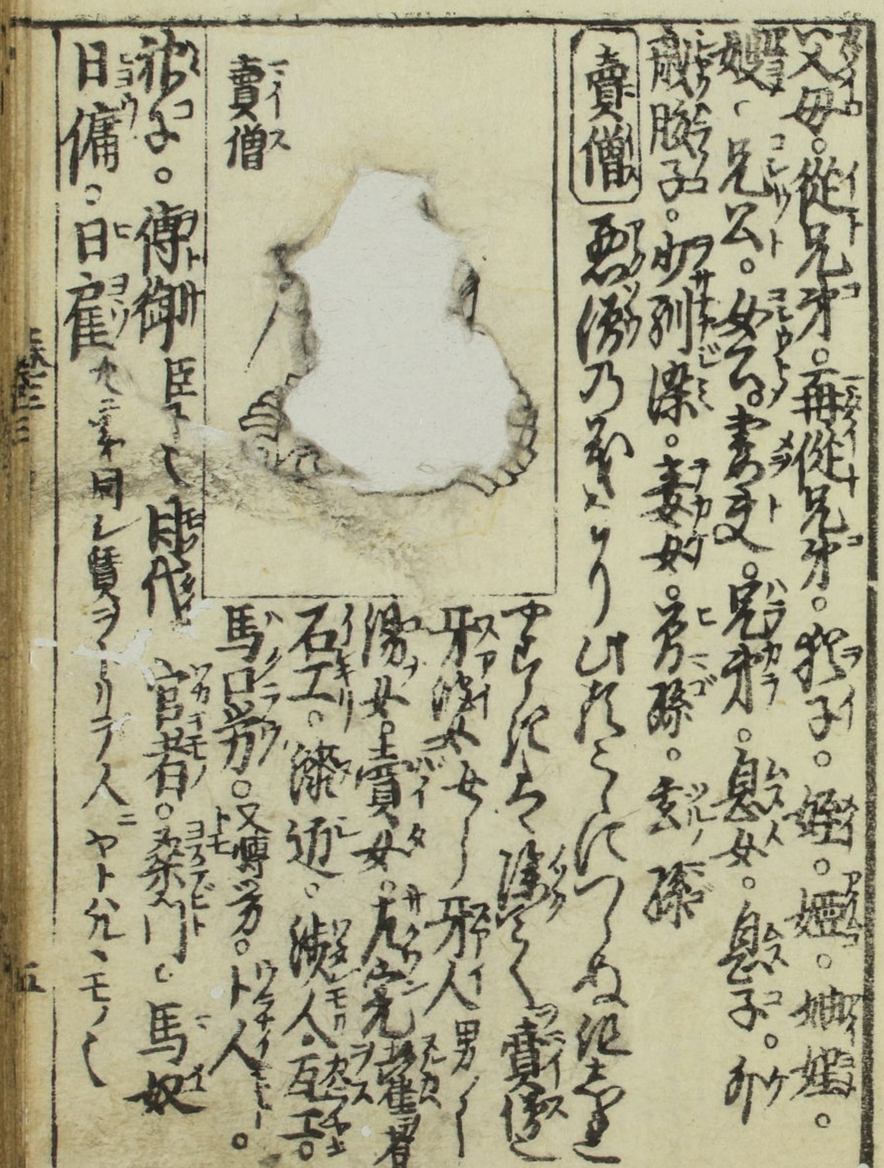
[道祖神]

今これを祭るなり
竈は老婦の姿也云々
老婦は先炊者也云々
[道祖神] 道祖神は
[人倫門] [温陽者]
廣遠也

博覽ろ〳〵と温湯ろ
ろのろりのし、ろ湯
今悪ぬ
ぬ
ぬ

ものいまだ無分のうち
ゆゑ梅梁をひろげ
ゆゑ空の孔をいぶ
韓退之高人を求る書
書云知て卿梅梁机超

〔婚姻〕
男女名云ル不雅
云ル婚之父為婚姻婦之父
為婚婦之父壻之父
母相謂為婚姻ゆゑに
孔の字をいぶ
多逆父祖父母



父母。從兄弟。再從兄弟。姪。姪。姪。
嫂。兄弟。女子。兄弟。息女。息子。外
戚。胤子。外孫。妻妾。孫。玄孫

〔賣僧〕
惡僧乃至ゆゑに
ひとりひとりつゆ泥
ものゆゑ賣僧
平人男女
陽女。賣女。凡官光祿者
石工。漆工。瓦工。
馬口労。又博労。下人。

賣僧

被官。傳御臣下。
日傭。日雇。同じ賃ヲとりて人ニヤトハルヽモノ

藤次　藤次酒造るの
のとき色黄甘者法和ら
いものゝ酒とする法ゆゑ
ちらつく去くまさ藤
よ者加扈從事ゝ酒とする
ゆの美味ゝ者ゆ

源助　源助も酒屋ゝ
男ゝ云ゝ
ゝ

扈從　司馬長郎上林賢扈從
橘江玄玄助古庄扈從ハ

隨持ノ者ことゝり又字香扈ノ字ノ上ノ後三從八日ノ扈侍
りゝ
と呼扈從ゝ
ゝ

器財門　練

文選ゝ紙の字を作るべゝ
字をよ角せりゝ指揮とゝ
紙の紙字
巨ゝ。撑子。天目。行器。貝桶。織部。中蓋。
蒙花龍。銅瓶。焙炉。炮烙龍。百切。面桶。蒲鉢
盆。卓。圓座。湯婆。七輪。塵壺。柄杓。
擔桶。地炉。炭計。建水。硝子。燈盞。凡灯

杼。雷盆。水嚢。鑢。行。鈹羅。布巾。
柢。天秤。鎮子。杜秤。亜天秤。枚厘等 刻印
十露盤。定木。割符。財布。符契。刀子。鋏
。栗剥。薄刃。出刃。庖丁。魚般。魚箸。山刀。木刀
椽棒。金杖棒。木挺。鉢篠。櫂。泥鰌。持箒。
墨壺。曲尺。圖景。衣桁。夾箱。瓜挾。作箸。文夾。

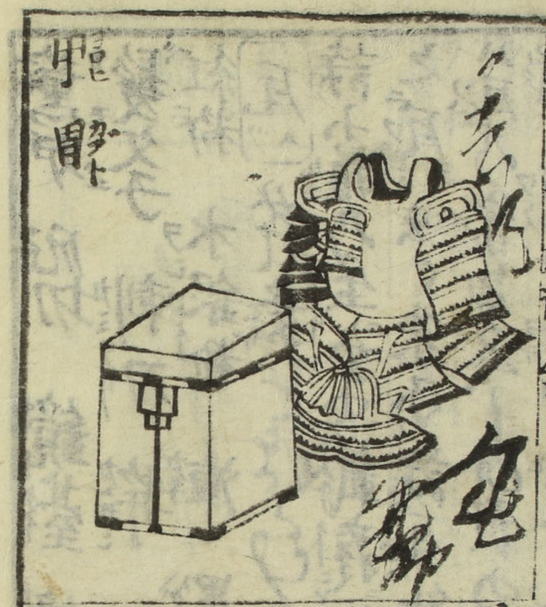
髪搔

髪搔 女の髪をかきあらためる櫛也 櫛は梳とも書てかうりいくしくもろもろ元よりあり 元和元年天竺より渡りし櫛の製に倣て客鋪の製にまさるとかうつるなり。鋏刀。鋏子。

薫炉 瓦切 鏡墓 鏡粉 鏡匙 撫匙
髪文子 刺刀 筥 髭曾 軽粉 粧粉
紅粉 水銀粉 渾 黒歯

瓦 女瓦 葉おとし 道具也 瓦窯 詩に雅乃生 女の載 載之池 載衣之 揚 載乗
之瓦 云く朱子の註瓦 紡時所用之物也 ふる
ハ瓦乃字 ゆうべ山 乳のやうなる
機 籠 筬 桜 管 経串 縢 機頭
織機 櫓 横 絡 筬 枠

韃 韃壇 嚢 抜云 日本にあらず 樣 ものや
文字 ぬ ぬ ぬ 韃 簡 敷 具 幹 ぬ



○甲　日本俗甲ヲ呼テ冑乃訓ト

冑　甲

兜　鍬形　鍬形　手綱

鎧　書　腹帯　紙　手綱

鎧　旅　逆頬　平鏑　泥障

鐵鉢　鐵　鉢　鶴目　鐔

鞘　鐔　柄頭

鐵精

鐵精

鐵精の字ハ鐵ノ精ト訓ス和名抄ニ鐵精トアリ

多鐵編ハ鐵精トシテ多クノ鐵編ハ鐵精トシテ考ヘアリ

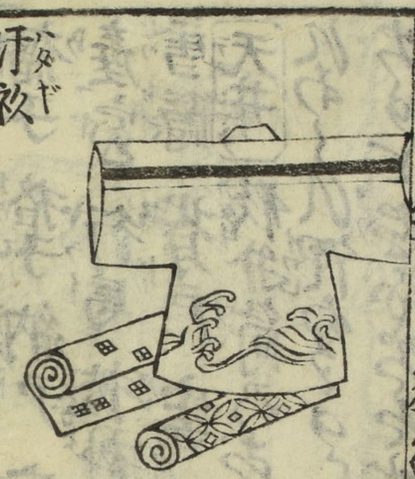
鐵精ハ多鐵編ハ別ス

たちうくえんてうくうくうくはかの歯にはくはかのもの

居宅門　母屋

母屋くくくく

○ 櫛笄 櫛櫛 上服 鈦服 帷 襠 十徳
青襖 襠袴 浴衣 鬢帽子 宿衣 蒲團
清早衣 布子 襤褸
天鵞鳥絨 多織篇 紋子 紬 紬紙 立文 流文 綾 綸子
金襴 紬 紗綾 紅絡 光綾子 繻子 繻珍
緋羅紗 羅背衣 裱 晩羅綿 汎織 金紗
絹粉 頃和名抄くしろ 常和名抄粉末の字とのう



汗衣

とかくこの用の衣類洗濯のことは和名の洗ふ

べし 和名抄くいよ

精 稗ぬかゆ 分韵註精米石 春作八斗也と

あるきはかたうるうり

准鼓汁 鼓にてのそらふくよしとおもふべし 佃味乃弘字

にのそらふく 鼓汁 走汁

ふにてつる 清汁 ○不識汁

漾味汁 膳部 魚場 凝魚 覆面鯛

馴入物 酒浸 蘸物 茄物 沉物 辛茄茗

沼田茄 麩酒 豆油 鄉食交 筍子 纖蘿蔔

蒲穂子 豆腐 柚餅子 納豆 燒飯

田楽　増水　米滴　饅粉　餅粉　餃團餅
黄粉餅　深更餅　求肥餅　糞餅　温餅

積鳧禪　うんぐいこう　男根　男根　布也　横尺牛
ありつるひ　ハ男根　根　小牛乃鳧　鳧　ぐいこう
縛ハ　ちゝ　帯　ちゝ　○　聘布　繼　襠　濕布

白絲布　白絲布　項和名　ぐいこう

氣敢門　比翼鳥　比翼鳥　所　翼　翼　名
ありの　敢　ぐいこう　ふくハ　鳥　家　ちゝ　番　お
金　雄　雄鳥ハ　雌鳥乃　雄　鳥　鳥　鳥　鳥
雌　鳥　雌　雌　鳥　鳥　鳥　鳥　鳥　鳥　鳥
海　猪　ぐいこう　ぐいこう　ぐいこう　ぐいこう　ぐいこう　ぐいこう

比翼鳥

鳳凰　鳳凰ハ　色　瑞
鳥　鳥　長也　名　瑞
とゝ　字　秉　演　圖　之　鳳　ハ　鳥
生　放　丹　穴　非　梧　桐　不
接　非　行　實　不　食　非　醴　泉　不
飲　身　備　五　色　鳴　中　五　音
有　道　則　見　飛　則　群　鳥　從
之　雄　曰　鳳　雌　曰　凰　ぐいこう
禽　鳥　ぐいこう　字　ぐいこう　ぐいこう
但　馬　鴨　おのゝ　ぐいこう　者　ぐいこう
ハ　有　ぐいこう　ぐいこう　ぐいこう　准　ぐいこう

鸞鳥
鸚鵡
孔雀
鵲
鶏
鷺
鷸
鵬
鳶
鶴
鵠

鷂 ハシタカ
隼 ヤツサ
鷗 カモメ
衝 チドリ
鵠 クグイ
鴉 ウ
斑鳩 ツツクルベト
青鶯 インコ

鴨 クイナ
杜鵑 ホトトギス
鶺鴒 ツツタキ
鷄 ホウレロ
四十柄 シジウカラ
喚子鳥 ヨブコドリ
雀 ルリ
鴿 ハガウ

卵

麒麟

麒麟仁獸なり聖人の時に出現するものし
び獣生ある物を傷ふ事なく頭上に一角あり
ありて物を害せず牡を麒牝を麟という
礼傳保乾圖歳星変而為麟云々

石食鳥

麒麟

豹

犀

貘

鹿射

禾日

嘴虎

擬

雞

野猪

獅子

羊羸

貘

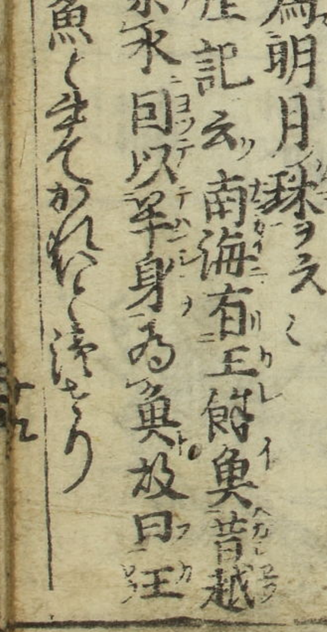
狐
狸
狼
猴
猿

豚
黄牛
水豹
牛
特牛

鯨鯢 二字共にくじら 淮南子曰鯨鯢ハ魚ノ王也 ゝく又事文後集ノ魚門曰鯨魚ハ海魚也大者長數千里小者数千丈 波浪成雷噴沫成雨水族驚畏皆逃匿 敢當其雌曰鯢

大者千里眼職爲明月珠ゝゝ

王餘魚 項和名云ク朱厓記云ク南海有王餘魚昔越王作雞不盡餘半棄水曰以半身爲魚故曰王餘魚云ゝ又多識篇ハ比目魚ゝ生ゝ



王餘魚

名龍魚

鰤

海鄭

鰶魚

鰈魚

清前魚

鰻鱔

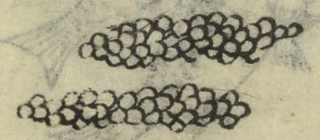
鰆魚

鱧ハモ
江豚ノ魚
小鯛ゴンギリ
鮫ハヘイ

石首魚モチ
飯蛸イヒタコ
海老エビ
烏賊イカ

鱆（スバキ）

魚子（ハラコ）



鰍（ドジョウ）

鯉（ニシキ）

鱆（カズノコ）

鰹（カツオ）

鰈（ホウバウ）

鮟鱇（アンビ）

鰌魚（ドジヤウ）

鱈（カベス）

鰧魚（ラウゼ）

乾鰯（カラザケ）

鰆魚（タチウヲ）

年魚（アイ）

鯖（アヂ）

鰶（セイゴ）

鱚魚（キス）

鯛魚（コノシロ）

鰯
海月
鱈
鰹
石鏡
海月

車渠
文蛤
海贏
榮螺
車渠
多識編に名こそ
海月
貝
辛螺
馬方

帽貝（ボウガイ）　牡蛎（カキ）

蟹鳥（カニトリ）　蝸羸（ニナ）

蛤蜊（ハマグリ）　蛤貝（同）

蛟（ハ）尼（ニ）螺（カイ）

蟹（カニ）　帆（ホ）

海（カイ）　膳（ゼン）

鰹（カイツブリ）

石決明（アワビ）

蜆（しじみ）

郎孝（スガイ）

奈龜（イシガメ）

田螺（タニシ）

敵龜（ドウガメ）

守宮（ヤモリ）

守宮（ヤモリ）

守宮の名あるゆへ蝎蝪也守宮の名あるゆへ蝎蝪也守宮の名あるゆへ蝎蝪也

蛇（ヒバカリ）　赤蝮　蝮蛇　蝮蛭

石龍子（トカケ）　蜥蜴（ヤモリ）

蟋蟀（カンキリ）　蟷螂（カマキリ）

蜻蛉（トンボ）

織部虫　促織　冬虫夏草　金鍾兒　金花虫

螢　蛍　蜉蝣（カゲロウ）　蝙蝠（コウモリ）　金子（カナブン）

蜻蛉
蟋蟀
蝶
鳳蝶
蜻蛉
蜜蜂
蟬
蜂
蛇
吉丁虫
蚊
灯蛾
蟋蟀
草蜢
蟬

蚊（カ）　豹脚（ヤブガ）

蝨（シラミ）　蚤（ノミ）　虱（シラミ）

蠟蟬（ハイトリノモ）　蜻蛉（トンボウ）　蟻（アリ）

蠶蛹（ハサミムシ）　水蚕（トビムシ）　虱（シラミ）

蝼（ケラ）

韮蠟（アブラムシ）　蛄蟹（ケムシ）

蝦蟆（カイル）　蛙亀（アヒカエル）　蟹子（カリシ）

紙魚（シミ）　赤蜈蚣（オホムカデ）　蚯蚓（ミミズ）

蛸輸（カタツムリ）　蜈蚣（ムカデ）　百足（ヒヤクソク）　蚰蜒（ゲジゲジ）

猫

猫の字つくる事かなり
和名に猫 新古麻くり

猫

草木門

火櫻

ヒカンクラ
火櫻

櫻

櫻の字つくる事かなり
和名に櫻 新古麻くり

也ふ心ハ羊ゝの葉と食ゝ多ハ(ハく)敗死(タケ)して
けゝうゝ(けゝく)じゝ(じく)死(タケ)ぬ也(なり)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)成(なる)ゝ(ゝ)羊(ヒツジ)
の性ハ至(カウ)寒(カン)の毒ハ山栢(ヤマビヤクシン)花(ハナ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ)ゝ(ゝ

樗　乳柑子　胡桃　椒　檀　蘇枋　樺　櫨
椶　林檎　金柑　橙　佛手柑　蜜柑　柚
海棠　鶏冠木　雄楢　木瓜海　黄葉
五倍子　松　南天　まる南天草　又南燭　ふくらかしの実　燭火草　故
りんどうの花　刺草　順和名抄　ちくまの山椒
馬蘭　杜若　ちくしの花　ちくまの
の若草　ちくしの　牽牛花　彼岸花
罌粟花　牡丹　芙蓉　芍薬　風蘭　紫菀
芝蘭　紫陽花　百合花　鳴尾草　鹿鳴草

鳳仙花　白頭花　氷蘭　旋蓋花　番茸
鶏頭花　菖蒲　桔梗　鼎雀麦　名所　数冬
女郎花　龍膽　木賊　葛　白芝　酢漿草
蛇床子　老人草　鼠尾草　虎杖　三七
凌霄花　寸穂芒　茉莉花　粉団花　遠花
山女　玄及蘇　金絲花　名荷　虎耳草
鳶尾　麦門冬　石菖　兼和菊　氷菊
故火草　淺盆子　蓬藁　仙人掌草　徐凡
酸漿　慈姑　車前　蒼耳　稀莢　牛膝
萆茗　蘭蘭蒿　絡石　壁生草　吾木香

胡葱　多識篇にハ多識和名ハ鴻蒜とあるあ
らっきょう　海さらし　韮　茎葉
藜　蒐　芹　苣　莽　蒿　菠薐草　馬歯苋　分葱
東風菜　根深　刈根葱　卜治　蘿菌　茎菱　芎藭
地膽草　五加木　胡麻　仏子　蓼　狗尾月　独活
烏芋　葡萄　薯蕷　蒟蒻　蕃椒　山葵
苦菜　蕪　大根　茄子　真桑瓜　冬瓜　越瓜　胡瓜
玉瓜　甜瓜　西瓜　松茸　椎茸　平茸　紅茸　木耳
土筆　蕙　費菜　蒭　小蒭　華蔓　羊角　芫胡

早稲　須和名ハ久さらり久さらり

稲苗　早苗　晩稲　糯　橘　粟　黍　稗　粟　粳　麻
芋　玉芋　黍　粳　米　稷　麦　真麻　大豆　赤豆
蕎麦　小角豆　豌豆　雄豆　蠶豆　刀豆　胡麻　稷　稲

海苔　須和名ハ久さらり宇多ハ海苔
神仙苔　乾苔　昆布
十六隠苔　堅海苔
鶴冠苔　海髮　海松
海雲　滑雲　搗布
海帝　石蓴　烏頭布
水雲　和布　廉角菜
神馬藻　目莫鳴草

紫菜　須和名ハ紫菜　壺嚢　云ク　堯王の女　舜帝
の后　娥皇　女英の二女　象王　紫姑

の浜瀟湘の南紫檀の葉よりそれハ天の
原常に瀟湘の岸に生ずる竹なり
うりて現に深つゝて千年を生ずる瀟湘竹ハ
みな海ぶらうりしゝ也山竹ハ
て世に弥まりうる事ハ山竹ハ二つ有り

○淡竹　若竹　漢竹
孟宗竹　百茶竹
篠竹　弓竹　苦間竹
小竹　篠竹　筍竹
竹茹　篠竹　穀竹

支體門　仮指　脚指　魂の陰萱とうつゝ千紙
指に仰ぐれ公うり支体の孤まハ○顱頂顔
額　髪　月額　頬　額　顔會　鼻頭　頬
鼻　董　鬢　髭　髪　鬚　蜂谷　旋毛　項
輔車　顔　脛　内皆　外皆　睫　喉　吭　齦　齗
掌　手心　臍　命門　拳　豆指　頭指　無名指
季指　中指　膚　胸　体　胴体　脇　肋　胴　膽
脚弟　小股　髀　陰部　玉茎　玉門　陰核　屠
畢丸　尻　踝　跟　臀　月蹠　陰嚢　脚　臍　脛
蹠　聚毛　子宮　乳房
跑瘡　りうさ　ゝたらし　項和名抄

[illegible]病新羅國ヨリ来ル[illegible]
八統[illegible]奥[illegible]ケル紅[illegible]彼国ヨ

[illegible]癖[illegible]痛疥癩 眇目 代指 痂 疼 癬 癩
疔 [illegible] 風瘡脉 耎癰 冊遊 瘭疽

兎缺 いぐらとしたる兎乃
[illegible]

膝行 短項 隆準 瘡 癩病 趾跛 [illegible] 鳩脇
[illegible]頭蠻 鶏膝眼 疵 胡臭 癖疾 胼胝
[illegible] 癜風 紫癜 悪露 重舌 [illegible] 汗[illegible]
熱沸 瘡 白禿 聹耳 呃
疱背。[illegible]

緑色門

緑青 [illegible]
[illegible]畫具の名[illegible]
[illegible]朱 牛粉 胡粉 燕脂 白緑 [illegible]青
雌黄 實[illegible] 雲母、丹土 金泥 鈴泥 金薄
貝粉 徑粉 憲法染[illegible]茶[illegible]憲法[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

言語門

一瀘觴　ろく始とうるを瀘觴と水かとうし
せきうん家語曰岷江初出於岷山其源尤
水可以瀘觴及入楚國滄波万頃也非舟航
不可以渡也岷江は大河也源岷山より
流濫うれとも江の大なるをもて楚國に入
ちなをさうてうりて始と瀘觴と詩合カ
岷江始瀘觴　入楚即無底
とうるをもつてなり

うの川そのみなもとを養はいまだ詳らかならず

平生　論語朱子注云平生時世といひわたしの氣味と衰微と今信のいひうるとうたがひ心なくなるを

良久　後漢書列傳帝紀良久の歎息云々其注

良久猶世云云とあるごとくしばらくといふ

清息　書状と清息とあるは清息同じこと

清息とは息と清しとあるとこと

嘗て重万里の月みるやうに半ばは出でぬ

すれば不審敬すべし

の説と延喜式に善注清息生せとあること

あるべし　あるべしの時也下学集に云上古和漢

未相勧曰完賢言士窮之窟賢人所居書札

虫くよたれふけ人とかとうたがひ問ふこと

人と物せりはたちまちに悪の弧と

のぶるとは類帝王の患と成

ぬるとはうたがひて良の信者れのまり祝して

穴栄に学ぶ穴かしこうして悪虫

と伝ぐこの心せ世伝云悪よりこれ行り出

こゝ嶺しそこの窓ゆとうとゝ曙くかこそば
うち手見ひそなはまるかの嶺へきたりしん割
相通ろうとうとうてかゝゝかゝゝ

一指南　車とゆびさすと後りむく間の世に
南蛮の使者蛮国よりゆくとしに怒国にこ
ろもとて後り事あるさうべそは用公且工に車に
にくりその車のよに人形とゆり必南ゆびさ
すゆゝしく方角とうこそうこそ
南蛮の使者蛮よりゆくものとゆう
ものと指る車とふ見ひうてゆと洲ゆと指るこ

一稽古　いかゝとかゝるよ先り古人の金言善
行と考へまるふと稽古のゆり尚書堯典に
曰若稽古帝堯とゆりまる後漢書桓栄日
今日所蒙稽古之力也こ

一竹簡　くゝりもつひとゝ書を作るに
もるるのしみう簡とゝ竹ハさるゝ洲ゆり
一河沿　いさごとそうて洲ゆり河ハ選ゆる色河に
ゆて金とうるべくはこの他文と別らて郊野
て通行とうるとゝ河ゆとるゝ有り

一穿鑿　穿ハうゝ鑿ハのこゝとゝ心ひ

書逐の繫わく找ものとりうづらく浸く
一食儀　食字彙千兼切　皆也減也又衆共言
之也云々と儀いくらの合也云々人々合
おとくくたそ行とくくるれもの
一吟味　吟ハ流文口急也云々侍秋のてびは
よ問ものを吟ものを味ハあぢつひさ
ものをしまいくくのんせ
一評定　評ハ字音品論也云々品々論ハて
ものを評ものを定也云々

一授　授ハ字書授也云々注
ぐるつくくるものれ行ものれ授授
ものをものをはもをものをゆくくり
くくと授ものの心也
一如件　壇義抄云如件とハ云ものの
くくを細とくくるとハ法ものを結
ものりもくくを授ほをくくとの書ものの
一裏貫　寺書記ハ衣裳一件くくるくり
作加皃とのり加とけそくくと授くくとハ

髭員とゝろかり拉み義詩ゆ韓茶同髭員ゆ

一偏頗　ひとへよりひとへに後り文選に偏頗僻

江頗傾せとゝろまき顔書顔字の下に云偏

頗下注に云ものとハ道理不正ゆゑかたよりて

髭員とゝろと偏頗と

一荷擔　二字共にかつぐ人の心を用ひとゝ分て

うゝ肩へとりてかつぐを荷と云擔と云在肩ゆ擔

在背ゆ荷八歳に荷ハとりてしゝ

擔ハうゝ肩へ擔ハかつぐ荷ハとりて今案ずるに

とりてかつぐを擔とゝ

一逐電　いそ光とゝ走ゆ電ハ光るとゝ

弦のくゝ弦ゆくゝ矢ゆとゝ

一数府　府字録庫垣に云逐我

八注に馬とゝ走ゆとゝ

逐ハ馬の競馬ゆ

一要術　按ずるに文選に云同州安城品氏不反

業を云こ呂延濤注曰墻也安洪墻墻不失家
業こうりん分り所を安じてゆゑとれ業こと失を也
一滿足　こうらんとうを也ほどらうれ心のくゝ海
足こと四くく花ろへ呂乃音れ待ハ子欲切人足
也文れとうひ時ハ將樹反足の音ゆり不足と
云れと不足ゆるれしこうれハいゆゝより誤あり
事ゆゑ八今の文ほゝうひくれのれ
まくゆりさうれり
一勿俸　弗ゆとうひ俸ゆれの事也ほれ今
如勿俸とかくゆたれゆうれ
一等閑　ゆとけりと濤こと今俸ゆれ等閑ほゝ

かゝとゝけり公ゆ正理と失とう無等閑とうくゝゆと
ざりのほうゝとうゆゆ也等閑ゝけゝうゆゆ義ほゝう
一如在　心ゆゝうひ濤ゝうゝ如ゝゝゝゝゝ海ゝうゝ
ゝうゝひそう敬の事也論語曰祭如在祭神如
弗在ゝくゝゝ儒門のさゝてゝ事ゆりのゝハ
先祖の弗とゆりうゆ孝心の後と出ゝとする也
ゝ孝心の後と出ゝて眼ハ先祖の思邪感意
しゝ同ゆゝいい海ゝゝゝおゝゝ変ゝゆうりのゝそれ
いんゝうゆゝきハ死者ハ化ゝしてゝ感ゆし
ゝうゝゝ君ゆハ祖考乃ゝさ接ゝゝゆゝハ祖考
乃義ゝゆ神ゝ高ゝゝゝゆゝ神ゝと純

かゝく孝心とゆゝしき物の気に感通す
るの理ありこれを如生禮奠とゝもゝ云ハ
ゝ云ハ公の教ゆゝしかゝ俗人の孝也俗人今法
書怀よりなほ世俗ゝ人に出ると云
まゝ事也ゝ

一自然　なのゝ
暑さゝ寒さゝ四季ゝ轉変とゝ自
ゝらゝ然るの道也ゝ云ハゝ
自然とゝ
漢書ゝ云ハ呉ハ吉ゝ
呉ゝ字ハ同ゝ

一神妙　易経陽不測之謂神ゝ又中庸鬼
神之為德ゝ盛矣乎云ゝ鬼神ゝ云て化の間
光満ちそゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
人倫万物忽動ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

名誉
宥免
緩怠
弾劾
勤博
強剛
覚悟
不覚
赦免
恥辱
遺恨

名のほまれ
ゆるめゆるす
ゆるくらとくらう
ゆるくさとざろう
うどんまろぶ
二字の九ぶきく
二字の九ぶさくろう
さんぶくやとむ
二字の九ゆるす
二字の九ぶらう
くくとのくれ

口論
赤面
行脚
傷残
血双
堅固
建立
成就
雅楽
容儀
不陽

口ばりの場をとる
ちゃくきゃくろう
二字の九ぶあかい
くらんくつく
すびるの
二字の九ぶ
まるひまるか
二字の九ぶくろう
二字の九ぶあさらう
くらくらそのい
のぐむとろう

部集　京桑　発覚　思色　虎育　慈悲　海心　野心　得心　行法　憲法

不特　乗乗　勤怠　不審　遵紀　故別　練言　紀明　区別　言説　法場

巻四

遣信　倩案　元服　利益　理解　利益　完効　解脱　体息　勇健　遣元　誓文

巻四

惜言　兵糧　会衆　改易　定　居所　風俗　服従　不図　恢兵

惜恐　騒動　公儀　無行　言語　秘密　秘伝　自侵　被見　執行

右筆　後起　交配　配分　肥後　先段　守護　修復　掃除

陰謀　減法　悪傷　今備　後悔　苑弾　隠遁　桃園　常住　伽藍　堂塔

幸常　くるくしかわる　拝領　さあとうます
おりつれも部さきみ部よりそつくづく
一学問　さうやう学問也　今流行の学問清れすくさらく
時用侍る学問仏を学　所業あれども学問
部おれてくるまぐるのごとくこのもろくんさ
喜の学の山林にさうかたくしられバもたら
ぬんてうと鈍しこうまれあまハ家法出世のくんハ
うのさうひまのそんあるべきうのわう
一憍慢　憍ハおごりあるこいつらい
慢ハ高ぶりよりそんなんれぬんど
一自惰　ものうあるうれうみ惰のものとし

ようくようもこ義こ居てつりても我のこそのこ
ろをもうとくそんをわるおぐりそたの惰ハ
別ようみぐりてすることをりまり又ら貪ハ惰ハ
惰也怠ものこと部ようくあるこうあるこ
山住意ハ海ばかりのんられハ義ハ
自惰もうのいまこそたにもせたりあこ
ようたよりくえハ惰ようのあるくまりまぐば
見自惰の知り所ハ怠ようれ知ずや義ハうん
人ものあるこのこ
一狐藤　みうりうきもも狐ハりうこ藤ハ
給藤也とうあるこのこ狐ハ藤ハ

一樣蠅　佛書に云ふ宮殿樣八幾
世にして長慈乃ち[illegible]
の人乃ち[illegible]
てそれぞれ[illegible]

一刻者　[illegible]
[illegible]
[illegible]

柳絮以先眼青龍作

一言語　ことばのたくみなる事

論語曰人食不語寢不言云々朱子注合述曰寢自言曰語

殆とは近しと訓ず

一脈脈　はこびのたえずつづくし脈は文理

殷也と注はいとゝ解は今の人命門と

一徴借　朱子論語注云穀不熟則徴借

曰徴とは本文穀の字を徴とかく

大根の葉乃ち徴借穀菜

にあらざる儀借とかくべし

一倹約　約はつゝましやかなる倹はかゝる集解に

云去奢從約謂之倹とかゝり奢とは

おごり約とは倹約なり倹と儉とは

し奢則不孫也寧固とかゝれば孔子

都解かくのごとし

一上下　圍碁なり

の世俗

一接辭　辭をあしらふなどゝ辭はもてなす

新のうらをぬきんでゝ接辭とかゝり

一忘劇　字義を考るに忘は遠也劇は甚

せとうちうばのあやまりなるべしとなり

蒙尾　蒙はかしらの尾ハとしとしてあるべしこれの事也

左平紀中世にくさのつくりの光ハんつけてまた或書にあるいも

びちくさの用儲と用ひ初のちゆびふた

蒙尾　まことにてこれ

一不祥　楽のうしなひ流り祥とは流ようしさ

ものとしたのれまいまことにあるべしゆれの

と祥といふなり

わるいといふなり

一毛　けだしくさ流と立ハくさりの意ものの

くさりに掃除物ハ

ほのといふなり

一振筆　さしてあ食ようべりしべ翔

まことに意字のけ

術述　筆動のまこ

同ハくさ

よわ〳〵すとつり手

て服ものに振起

くさ〳〵左平紀

字面にかのそ

一張行　ちやうかうとうの事ハ法ハ立ぬとつゞき
てゐる事ゆの金ハあてもらひ命をとりてさそう
と狐行とゝろも荒ハ天運論云孰主張是孰
網維是ゝ張とゝ分と法とゝの論
一郵傳　四書大全云上行下效謂之風民志一定
謂之傳ゝ世傳の野ひとゝ云ゝ
なれハゝ云事ゆゑ
ハゝとまるゝ
ゝ民ゝ
ゝ傳
一風流　ゝ

一常常　ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

一折角　角をおるもの　別とりのごとく撥と出し
んと折くるものとうつる　宋僧の元帝
の時ぶんめとあるとぶ　清涼山に文殊
の光宅寺云りの所の　ちりく法傷られ
と推すわらうべ　羅漢　法傷
羅せつ　宋雲　折芸角　ちりく法傷
激　迫　四原　宋雲　折芸角　ちりく法
たつ

一兎角　うさぎの角とうさぎ兎
角なりのこされば兎や角　ぎめぐる
とうつうなきまぎれあるべからざる事

一反面　ありて行とようしゅう　白拍子の舞　
ゆくゆくの義　ものうつる　化世界　
落　外　みのあり　男　れおのて　歩　とうた
外　おとそ　拍　ハ　日　外　て　時　笑　をの
開　さ　法　ど　きれば　ハ　日　外　て　時　笑　をの
たつ　ものくるもの　園　の　ものそ
一撥　撥　と　所　と　ものくるもの
撥也　撥　ハ　逼　撥也　字　と　撥　る　撥
撥　と　推　と　空　と　撥　撥　と　や
節用集　撥　ハ　ゆる　心　撥　ハ　ゆ　ん　り
一合点　と　合　ま　り　ぬ　伝　文　小　也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と[illegible]の[illegible]バ帝史[illegible]と悔くくぐろ
[illegible]雲殿の樹とようぐ[illegible]ていくく[illegible]得
下[illegible]龍逢比干[illegible]地下足矣く山史[illegible]
[illegible]雲と[illegible]てくくろ[illegible]は[illegible]軍幸慶[illegible]
雲が賢才うう[illegible]と[illegible]くくと
の意くけくく[illegible]刑代[illegible]て
[illegible]雲[illegible]びはへて[illegible]ようぐ[illegible]
[illegible]帝の[illegible]と易[illegible]
くく[illegible]の[illegible]て[illegible]雲[illegible]
くくと[illegible]
と[illegible]

[illegible]
見ゆ[illegible]
[illegible]と[illegible]

一黙[illegible]

性[illegible]と[illegible]
如[illegible]日[illegible]
[illegible]
一役[illegible]
賢[illegible]
[illegible]
至聖の人[illegible]と[illegible]

いうんとの事ハ是ハ[illegible]
とうるゝ[illegible]
あハ濤とうとうるの[illegible]
海[illegible]
[illegible]通ぐ[illegible]
一至急
遠慮 必有近憂
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

一問果　法屠氏の[illegible]

今生を果位とする[illegible]

[illegible]

一方便　[illegible]

[illegible]

[illegible]

一率爾　論語先進篇[illegible]

注に輙[illegible]

[illegible]

一和勝　和八[illegible]

[illegible]

一[illegible]言固　[illegible]

[illegible]

一[illegible]言　荀子云傷良曰[illegible]

[illegible]事をわくらひる[illegible]

一分　かと合[illegible]

難字訓世家圖彙

一落拓　落魄の字書に曰く落拓の初也落魄の魄の字書に曰く魄の初也

一禁令　禁令とは禁の字書に曰く禁止所禁也令の字書に曰く令法所令也

一律義　愚按ずるに律呂万法所出也故法令謂之律云云説文均布也十二律均布節気也

一法令　法令とは令の字書に曰く令号令也

今世俗の事と律義と俗

おく何の役もなくいたづらに湯殿
あやまれるを世人つくそんて孫さうに直りの
まゝに通ぶべさまやう

一僧侶　安さうに紀安国公職服貴族習之
僧侶質素なれば国こゝろ賊也さうに茶碗
うつくしく貴人高位の體とそうを備えさう
一藝者　藝者ハうるさく清こし嘗ハ法花の義
世法ひとうるのめとと藝のうるひ教服花
服とうれうるめくいうれり
一江帥　大江匡房さのうめを宰帥に任ぜ
らるゝ時ゆゑよしの帥といひしに人博学和

歌のうるしおれ世人歌ちうやうくめと
江帥うるうるのうるうれり
意気　世俗乃利ひそいさめてハうれ作
うるうの字ものびとうるとうるとうれうの
意めていうるうるうるうるうるの
一安排　食味の加減とうるうる馬伯庸詩云
白毛紅点巧安排うるう安置也と注してかうるの
排ハうるうる焼也置てんのけてうんをして
うるうるすうるとうるうるうるうるうる

[illegible]

一風時　女子同し洲[illegible]

[illegible]

一懸隔

[illegible]

乃序　從よりて天賜[illegible]

一追後　[illegible]

一寵妾　字書寵妾公貴無禮[illegible]

[illegible]

一種々砂多　[illegible]

[illegible]

一訛　田舎人のあやまりをいふ　塩書抄云摩訶[illegible]

訛とゝのゆゝとゝめり化とゝめやまゝ
一夫語　口帰ゝ〻く初の高くゝゝとゝ超仙
愛人ゝゝかゝゝ
和言　耳語　可憎　可笑　可惜　佛そ
海雲　寵光　寂光　愚面　片時　何時
往時　少壮　若栄　散靡　周章
向後　時勢　東西　去邊　不忍
所縁　未審　然量　西古
白眼　煩熱　自在　天命　真似
遂瞬　悄然　怒濤　不結　莞尓
不行　不手間　離々　移従　何不別　挑頭
龍音　交尾
生長

寂媚　光艶衣　可愛　草叩　有情　目下
慶明　半面　指南　筆姓高　風流　所行
行迹　世間　習気　方便　聲花　怒心
無人望
一熟　万々ゝゝよゝゝゝ他人のゝゝ業をゝゝ
みゝゝゝ傍のゝをゝ熟ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ万々ゝゝゝゝ
痛醒賢良ストテ酒不飲人ヲ熟ハ不見カモ似ル
一熟旨　食物の味ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝく仕ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ論語ゝゝ子無學未熟習ゝゝゝゝゝ

食皆不甞ゑく山等の文とられハ熟ゆ食物
にもまつと焼ゑ食ものゝ方ハ煮ものとらひ
所化の事ハ熟の字ハくさ〻を組食物の
味ハ甞ん通用すべきなり

一搾柄　搾とハしぼし毛詩ハ周公旦の酒を
会て斧の柄ハ斧ハ伐ハ柄のごとし也斧ありと
とハ柄ハ人ハ斧ハ伐ハ柄のごとし也斧ありと
いふ〻柄をうんぬ柄のそ〻ぬ風とをとげんや柄ハ
と月ハ人と執柄〻柄〻柄〻と陳孔章ハ
有斧無柄何以自治〻

一押柄　押ハとゝ〻ひとゝ〻ひ〻柄〻柄のこと

押ひとゝ〻ひと押柄〻柄〻柄〻ひ〻

一鞣　鞣張ハ高麗ハ教手を
ゐんくゝゐゐゐゐ書ものをすいとゝ字ハ
書ぶきみやゝ云ハ人ハ呼ハ吸ハ
すゝ云ハ人ハ呼吸ハ呼吸ハ
呼ハつゝ息吸ハひゝらきれハ
とゝんゐゐゐ吸ハ息ハ
よ吸ゝ云意とのけゝ吸とゝ
ゐいゝ帥の字ハ吸とゝ
軍の大将とゝ字ハ帥ハ将帥とて
ゝゝ軍庫のけゝとゝ

ひさとゝ[illegible]
字書ハ精也不雜也
[illegible]
一進一後　字ハ[illegible]
[illegible]
一率　仏字ニ云ノ意ハ[illegible]即リチツツ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
度（ト音ノ片ハ タビ ワタル タダノ音ノ片ハ ハカル）
樂（ラクノ音ノ片ハ タノシム ヨロコブ カグノ音ノ片ハ ヤスラカニ 楽器カギリ也）
易（イノ音ノ片ハ ヤスシ カハル エキノ音ノ片ハ カハル）
數（シユノ音ノ片ハ カズ シバク ルクノ音ノ片ハ シバク）
齊（セイノ音ノ片ハ トトノフ サイノ音ノ片ハ モノイミ）
惡（アクノ音ノ片ハ ワロシ ヲノノ音ノ片ハ ニクム）
龜（キノ音ノ片ハ カメ キノ音ノ片ハ カヾム）
積（セキノ音ノ片ハ ツム 塔作家 シノ音ノ片ハ ツモル 自然ニ）
[illegible]
[illegible]
空（クノ片ハ ソラ アナ ウツホ）
不（フノ片ハ イナヤ セズ アラズ）
思（シノ片ハ ソモフ ヲモフ ヲモイ）
先（セノ片ハ ミヅサキ サキダツ）
中（チノ片ハ ウチ ナカ アタル）
衣（イノ片ハ キル キヌ ヲ ヌ ヒタヒ ヒヤ ヒヤ ヒヤ）
連（レノ片ハ ツラ ツレ ツレ ツレ ツラ ツラ）
間（カノ片ハ アイ ヤ ヤ ヤ ヤ ヤ）

長（平ノ片ハ 仄ノ片ハ）ナガシ タケ ヒトヽナル ヲサ

縱（平ノ片ハ 仄ノ片ハ）タテサヽ ホソイヽヽ

教（平ノ片ハ 仄ノ片ハ）セシム ヲシヘコ

荷（平ノ片ハ 仄ノ片ハ）ハチス ニナフ

吹（平ノ片ハ 仄ノ片ハ）フク カゼ ヲ

遺（平ノ片ハ 仄ノ片ハ）ノコル ヲクル

はるかまさ物をとゝのへたりよくゝ吹傳ひ

一殺々　殺ぐれ家とゝのまさ富ことゝまり殺

おゝゝ鳴くハうみのゝくゝ音ハフクれ高也はいくゝと云

ゝと殺くハ音みくゝうゝ山ゝりまされくゝの

弟ゝ　ゝゝ殺ゝゝゝゝ

一尾龍　或説ニ云殺ぐれ天ゝ海ゝ北ゝ子ゝゝゝゝ

ようて殺尾ゝりまゝゝきゝ元を隠さんゝゝ海ゝ

に殺とゝりのと作りゝ殺尾隠ゝゝ

殺ゝゝゝゝ物ゝゝゝゝ侍ゝゝゝ殺の

内ゝゝゝゝゝゝゝ侍ゝゝゝ殺ゝゝ

ゝ尾隠也と作ゝゝゝゝゝ

ゝゝ海神の娘ゝゝゝゝゝ

鶏ゝ当ゝ天合ゝゝゝ海ゝ豊玉姫ゝゝゝゝ

一乖愛　殺ゝゝゝゝゝ

ゝゝ侍ゝゝゝ寸法武ゝゝゝ

本ゝゝゝゝゝゝ射ゝゝ

女の殺をさゝゝゝゝゝ

刺殺ゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

一用捨　用ひ捨てる也　用ひすべきと用ひすべからざると用ひべきとそして捨てべきと用ひるべきとする分

一朝戯　あぶけりうらやましく思ふの人とうらやましくかくの

紛らはし　混の

よろしく　沸のようてい　多分

道戯　イたずらル

和扶　モこうラム

養仏　ヨウナイタスクル

道永　ミチノホカ

鼓配　チラレクバル

驚揚　タカカルトヨムヘ　高名の所上ヘスタメ

優長　ユタカニナガレ

廣言　ヒロキコトバ

軽薄　カルクウスシ　情無人ヘマ

岩畳　イワタミトヨム　幾ケルヒラ

無骨　ブコツ　ホネナシヒヨミ其道ニホネナラスモノヲ

改易　アラタメカヘル

時代　トキヨ

吹挙　フキアグル

蒲徧　ミチアヒ子ナシ

輝兼　暉ハヒカル　兼ハミヤビヤカ

一驍　文選ニ馬

怪動　アヤシクウゴク

恭皆　コトゴトクミナ

時宜　トキニヨロシ

必至　カナラスイタル

媒介　ナカダチタスクル

玄用　クテモチユル

怪知　アヤシキラシル

駿徐　足ヨロ

早劣　イヤシクヲトル

物数　モノ〳〵ケ

変改　カヘアラタム

諷義　ソラトノフル

推挙　ラシアグル

施入　タヘイル

寛洞　ユタカニヒロシ

一驍　もかり

小兒　ちご

[illegible]

一[illegible] 日本紀に[illegible]史記の[illegible]厳嚴と
[illegible]
一[illegible] 万葉に[illegible]東南と書くは[illegible]
かゝ[illegible]これは或人菅原相乃の[illegible]
の詩と[illegible]乃社[illegible]
東行南行雲[illegible] 二月三月日遲く
と[illegible]しられハ天[illegible]庵室ありて
東行南行雲[illegible] 二月三月日遲く
と[illegible]
一[illegible] 汰沌櫛 [illegible]字の事にありて[illegible]字[illegible]
わゝ也物と一具よ[illegible]時分[illegible]

調の字を[illegible]細[illegible]
沌の字と用ひ[illegible]沌の字
[illegible]の字[illegible]
也かゝ[illegible]

書 文 覺 水 [illegible] 絆
右 筆 執 柯 [illegible] 刀
弾 琴 [illegible] 弓 牛
酌 酒 没 水 [illegible] 糸
特 春 蔥 交 [illegible] 冬
揚 名 [illegible] 秋 [illegible]
渚 河 渡 海 鼎 [illegible] 首 [illegible]
[illegible] 鐘 [illegible] 土

名丸　声　火
嚬　口　生　中風
窓　鳥　頻　眉　面　伯　當時
磨　鏡　錦　脱　衣　著　座
拷　城　調　茱　刀　勅　力　卿　甲　鶏　鳥
弑　或ハ主君或父兄スヲ我ヨリトラフコトヲ云　殺　我ヨリ下ヲコロスヲ云　馬　乳牛吹犬
送　人　贈　詩文　饋　酒食

かゝるたぐひ数しらずあり
一欲く
欲くらきこと云んや欲の字とかるこ
りしとよりこゝろ変りてくるしみ
和也万葉に欲の字をとりてこゝろ
ひりかるハ因

万葉集に面と作りたる
我欲し雨は降きぬ
ひんゝ我わりし雨
をそらくはあるべし雨は降らんと作りたる
養　下賜ものよ物とあるこゝろ也日本
紀ニ養ラク
一指　興棄物とかゝ所の綱也文選三奉呼直
指とあり思向注指作也ラクあるの意
一黒心　日本紀ニ賦乃字と
きこゝろのこゝろ
指ゝきりてきるハ賦乃字と

一嚴家　かつちうとも　禮記淫雲論
とも云り　ふうりうのあるひとうりて食すると
ふらさるかとも　つかりう
一嬰ハ音チョウ　嬰ハ音ダウ也　ハ
嬰ハ音ヨウ　嬰ハ音ヨウ

字書ハ字書也とうり文字集ハ字書
弱冠ハ廿歳乃ち冠ハ冠也
の物ハ物也ハ物ハ物也
ハ偏ハ偏也
ハ偏ハ偏也
ハ偏ハ偏

[illegible]長が縁よ[illegible]乃[illegible]
[illegible]霊[illegible]
[illegible]
[illegible]

向ふ[illegible]

一蒸拂　蒸ハ[illegible]

[illegible]

一傳[illegible]無人

[illegible]

一鍛錬　[illegible]

[illegible]

一錬磨　錬ハ[illegible]

[illegible]

一未涂　[illegible]

一磨ル　磨ハ[illegible]

[illegible]

四時行焉万物化焉天地の生ハ業也

一業こゝ業

蘊義抄　云文選云文字業也

刺史注高歩見ハ業也ハ業こゝ業也

詩経に其大有顕山こゝ書へきなり

[illegible]

[illegible]

奥義行の行ハ[illegible]

[illegible]

一利口　孟子尽心下篇曰孔子曰惡似而非者惡莠恐其乱苗也惡佞恐其乱義也惡

一利口恐其乱信也　朱子註利口多言而不實者也

一佞　日本紀[illegible]

一爽　[illegible]

一亟　[illegible]

[illegible]

一利口　孟子尽心下篇曰孔子曰惡似而非者惡莠恐其乱苗也惡佞恐其乱義也惡

一利口恐其乱信也　朱子註利口多言而不實者也

一佞　日本紀[illegible]

一爽　[illegible]

一亟　[illegible]

しのさせず流とゝめて只せ流の紋
日本紀に都連亀卦を云へり山の形体
卦をとりてたとゝうるなり
とゝ云へきあやまりけるやらひ御亀卦
也にいひのつせうせ流字なるの例なり
うるうるとゝ作るなり

真先
顔面
酔潰
居坐

素戾
俯天
素而
人身

透詩
突鼻
尼禮
距果

畑度路
頭蕪倒
多カヘラス
口不劣
虚威成

跋
吃
怠
貢

節操
偏迫

仕海
卒背
足下
嵐栗
実倒
月下
立合
小弥宣
擬作
甘足
無和利

成害
戦背
氏種姓
時石
無多口
交睦
脇校
裏奈〻
銀寄
肝心

差渥無渥
邪氣乱事
慣〻氣立
凡文
前非
真平
専
健氣
縫
蜜蜜
丈夫
有福
困居離
攫
紋貴命
寒

逆宣念
導踞
立合
噴色
曳色
老相変
宮殿

無術方便
天晴世智辯
一能〻〻
我他彼此
不尺事
無術
求食鶏
玄来
車軸
伽陀
密夜又
無斗柄
可惜物
奪取勝
意地不急
情強
慌〻陶
然〻〻
出我
上句終
駄子
剎
同嶋
弥〻
破家
震動雷電
怪我
生得
二言辞
見逃
小大魚
平〻動
編
端手
坐作
看〻
時行
亜差
習氣

編散
掉取
撰勝
浮腫
口訛
矢場
咄笑
狭入
間怠
連剥
皆式
長敷
無人間
鉾見
便〻
遅徴〻
散乱〻
雑乱〻
淳轉
混合
流名
皮束
魍魎
皆目
仰向
却舎朝
虚労〻〻
義巫〻〻
匂衛
彼岸落餅
無遣顔
浮和〻〻
巨多〻〻
愚乱〻〻
尺蠖〻〻
互落〻〻
契分〻〻
狐色〻〻
鬱憂
呵怒
恢
錦
縮
搭
蠱
呻
偏
謀

恰合（カッカウ）　如鶯々々（ニヨヤ〳〵）　手こづく（テンデニ）　人臆面（ヒトヲクメケ）　愚弱理（ニヤリ）　這蹲（ハイ）　沼田打（ノタウツ）　飽蒲（アクム）　掉頭（カブリフル）　自墮落（ジタラク）

續〳〵（カセク）　敎々々（ヲシヘ〳〵）　手持（テツカウ）　眼（ヒトケル）　星（ホシ）　亜古（トコトモナシ）　深閑（シンカン）　案酌（アグム）　改頭（カナヅ）　職掌（シキ）

愚鷲々々（グト）　如狐々々（ヒ）　羨々（ヒキ）　數（ホツク）　発心理（タツ）　阿房數（アホウラヒキ）　動下々々（ドカ〳〵）　文作（ブン）　手持（テコ）　真味理（シンミリ）　抱屈（ヒ）　漸々（ヒキ）

愚（ヒト）　喪計（タツ）　丹前風（タンカ）　怒角數（イタカ）　何程（ホト）　浪費（タイ）　不迴（モカ）　且時間（メツキ）　無慾（ヒキ）　陰氣成事（コト）

嘸（サ）　儘（ヒト）　嘸（サメ）　敎（ヒク）　綺（ヒラフ）　駄（ヒラフ）　吟（ショウ）　吟（ヒラフ）　禿（ヒル）

難字訓蒙圖彙　終

享保十五歳孟春吉辰

京堀川通佛光寺下町　木村市郎兵衛

大坂心斎橋筋淡路町角　安井九郎兵衛

嘉永四歲次卯十一月吉辰

心齋橋筋淡路町南入町

安井嘉兵衛刊